



①白藤醤油造元(しらふじしょうゆぞうもと)
 白藤醤油造元は古くから続く醤油屋で江戸時代は藤井善醤油といいました。今も年代を感じさせる建物です。



②③松風山 竹園寺(しょうふうざん ちくおんじ)
 安政3年(1856)11月23日の大火により由緒は不明です。天正5年(1577)大区誉万鏡によって開山されました。増上寺(ぞうじょうじ)縁で内陣衝立および屋根瓦に徳川家葵の紋があります。寺の裏に大師堂があります。



④旧街道沿い・片島の町並み(きゅうかいどうぞい・かたしまのまちなみ)
 旧街道の面影をわずかに残しています。片島村は旧長崎街道飯塚宿の北側に続く集落であり間の宿、遠賀川水運の船場でした。近代に至っては潤野方面から搬出された石炭を遠賀川水運で運送する船着場として栄え、明治30年代は総戸数の7~8割が川舩(かわひらた)、別名五平太船を持っていたそうです。



⑤観音堂(かんのどう)
 片島の旧街道沿いに小さな観音堂があります。古い木製の観音様がいらっしゃいます。



⑥志賀社の祠(しがしゃのほくら)
 志賀社の祠です。片島地区には川ひらたの船頭さん達がいて、その人達によって祀られたと思われます。



⑦⑧⑨水江(みずえ)
 国道200号バイパス「水江」の信号付近から建花寺川(けんげいじがわ)の向こうへと旧街道は続きます。住宅街の細い路地を進み、「シャトー水江」の先を右に曲がります。



⑩高林寺(こうりんじ)
 曹洞宗のお寺です。



⑪許斐神社交差点(このみじんじゃこうさてん)
 国道200号/211号線と市道が合流している交差点です。旧長崎街道はこの交差点を渡り国道200号線沿いに続きます。



⑫⑬⑭⑮⑯⑰許斐神社(このみじんじゃ)
 祭神は天太玉命(あめのふとだまのみこと)、天児屋根命(あめのこやねのみこと)、天鈿女命(あめのうずめのみこと)。許斐(このみ)神社は天正元年(1573)の頃、秋月氏の家臣、許斐某がこの城にあった木実権現を崇敬し神社を建て直したので、いつしか許斐神社と言われるようになったと伝えられています。須佐神社、稲荷神社、天満神社、蛭子神社が許斐神社の境内に併祀されており、毎年「天神祭」と言われる天満神社の祭りが八月最後の土日に開催されます。一の鳥居は伊藤伝右衛門が寄進したものです。



⑱⑲旧街道沿い・幸袋の町並み(こうぶくろのまちなみ)
 幸袋の通りは明治・大正の町並みのたたずまいを今なお残しています。幸袋信号機で東に折れるとすぐ、旧街道南側2軒目の実藤家の白壁に鏝絵(こてえ)が描かれています。左には富士の裾野で狩する武士、右には一目散に逃げる猪、真ん中には富士の美しい山が描かれおり「富士の裾野での巻狩の鏝絵」と説明されています。鏝絵は明治30年代が最盛期だったといわれています。



⑳旧伊藤伝右衛門邸(きゅういとうでんえもんてい)
 旧伊藤伝右衛門邸は、旧長崎街道筋に面しています。明治期に建てられ、大正期、昭和初期に増築された、近代和風建築物です。土地7,568.5平方メートル(約2,293坪)建物床面積延べ1,019平方メートル(約309坪)その粋を凝らした豪邸は広大な庭園とともに歌人柳原白蓮が日常起居した建物として飯塚市内に残る数少ない石炭遺産であり「炭鉱王伊藤伝右衛門」の功績を伝える唯一の文化遺産です。2006年9月26日飯塚市有形文化財に指定。2011年9月21日庭園が国の名勝指定を受けました。



㉑天心山 無極寺(てんしんざん むごくじ)
 旧伊藤伝右衛門邸の前に位置する浄土真宗本願寺派のお寺です。



㉒遠賀川河川敷(おんががわかせんじき)
 幸袋本町を抜けると遠賀川の河川敷に出ます。川島渡しがあつた辺りで源六渡しとも言われていました。伊藤伝右衛門夫人の柳原白蓮は、時折船着場に来ては向こう岸に渡して頂戴と言ひ乗船し、お金は持っていないので屋敷に取りに来てねと言ったとの事。旧長崎街道はここから目尾までしばらく河川敷を歩きます。



㉓柳原白蓮歌碑(やなぎはらびやくれんかひ)
 歌人柳原白蓮の歌碑が旧伊藤伝右衛門邸近くと嘉穂劇場近く、飯塚商工会議所近くの遠賀川河川敷、北九州に向かって左岸に計3基建立されています。

